

宝のえにしに平八幡

(市内の貴重な文化財や自然などを紹介します)



西側から望む田頭城



主郭と複郭を隔てる堀割

田頭城

— 南部氏と九戸氏の暗闘の舞台 —

田頭城は、松川の東岸2キロメートルに位置し、独立した丘陵に築かれた平山城です。標高は355メートルで、松川との比高差は、50メートルです。城の規模は、東西100メートル×南北150メートルほどあり、その縄張りには、南北に延びた山頂部を堀で断ち割った主郭と複郭に分かれています。東側は、段違いに構築された腰曲輪や平場が堅固に備えられ、それに対して西側には、高さ約2メートルの土塁が確認されます。このことから防御の主体は、北東の方角を意識していると思われる。周囲を見渡せる高所に位置することから、城主の日常居館を含む城郭として機能していたと推測されます。

近世江戸時代には、鹿角街道が東側を通り、宿駅が置かれていることから、田頭は中世から交通の要衝として栄えていたようです。

城主は、田頭氏と伝えられ、工藤氏から分かれた葛巻氏の分家とされています。江戸時代の文献には、葛巻氏に九戸政実の娘が嫁いでいたことから、南部氏打倒の協力を申し込まれましたが、これを断り、南部信直と盟約を結んだため、九戸勢から攻撃を受けました。田頭氏は、この攻撃を良く防ぎ、その功により、田頭の地を賜ったとされています。南部氏と九戸氏の岩手郡進出の代理戦争に巻き込まれたものと思われます。後に田頭氏は、天正19(1591)年の『九戸の乱』、慶長6(1601)年の『和賀岩崎一揆』に出陣したとされています。

- 《参考文献》
- ・「岩手県中世城館跡分布調査報告書」(1986) 岩手県教育委員会
 - ・「岩手県管轄地誌」(明治12年発行、2003復刻) 日新印刷社
 - ・「岩手県史第3巻」(1961) 岩手県
 - ・「内史略」(1973) 岩手県文化財愛護協会

お報とい倉たツ▽にが
願は思ま庫ねのつ驚があり今
いち案すに。しいかり月
し中が眠私1にさ皆は、
しまんとで、つのズれる皆、
たいす出たスインばんた
い▽しまノにンばんた
来てま1突タか活さん
よ年みにボ入1り活の
ろもよな1しスで躍の
しく、うっどまポしぶ表
く広かてはし1たり彰

編集後記

今月の表紙 よくおいでなすった



鹿角街道ウォーキングツアーは、10月26日に開かれ、約120人の参加者

が、七時雨一里塚から七時雨体験観光施設までの旧鹿角街道を歴史の趣を感じつつ、散策を楽しみました。

道中のお助け小屋では、地元の人材が扮する黄門さまが出迎え、温かい甘酒が振る舞われました。

また、街道に面している七時雨山が、11月15日に「山と溪谷社」から日本山岳遺産に認定され、地元で中心となって活動する「七時雨ロマンの会」が認定証を受け取りました。

